

特集I

特集I

株式会社モチベーションアカデミア

総合型選抜を勝ち抜くことで

自分の人生を切り開いていける人間に

大学入試の総合型選抜において素晴らしい結果を出している学習塾モチベーションアカデミア。総合型選抜・学校推薦型選抜の第一志望合格率(2022年度)は77・5%。現在、同塾の大学受験生のうち、4割が総合型選抜や学校推薦型選抜で合格を勝ち取っている。

指導の核となるのは自分を見つめ直し、将来のビジョンを描かせる丁寧な指導だ。それが生徒のモチベーションを引き上げ、学習意欲を呼び覚ます。合格へと導くノウハウを生徒とのエピソードも交えて紹介する。

モチベーションアカデミア
副代表
横山 翔一 先生



モチベーションアカデミア
総合型選抜責任者
松尾 祐輝 先生

生徒のやる気を高める指導 好奇心を持つキッカケを提供

モチベーションアカデミアは2011年5月に渋谷で開校。現在、東京・神奈川に5校、大阪・兵庫に2校、そのほかオンライン校を運営している。指導対象は中学生と高校生。創業当初は高校生が多かったが、今は高校生6割、中学生4割となっている。

副代表の横山翔一先生は「生徒一人ひとりのやる気高め、自ら学ぶ力や課題を発見・解決する力身につけられるようにサポートする。それが当塾の特徴です」と話す。

同塾では、入塾段階で「モチベーションタイプ診断」という得意不得意のパターンタイプ特性を分析する診断テスト

トを行い、生徒のタイプや特徴を把握。生徒の「やる気タイプ」に基づいて目標や課題を設定する。また、担任の講師と生徒は毎週面談し、カウンセリグとコーチングを実施。そこで学習が計画通りに進んでいるか確認し、PDCAに基づいた学習サポートを行っている。

「毎週面談するメリットは、勉強が遅れていないか、修正行動を早く取れるようになること。転塾してきた生徒からは「こんなに面談するの？」と驚かれることもありますね」と横山先生。

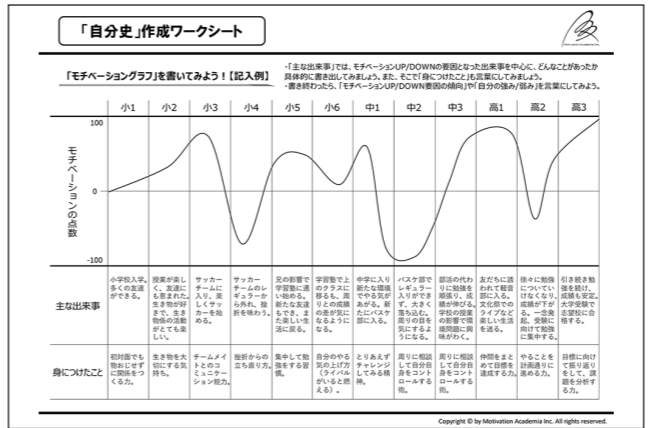
授業スタイルは1対1の対話式個別指導と、10人以下の対話式集団授業。総合型選抜責任者の松尾祐輝先生は「総合型選抜対策では将来何をやりたいのか、他の人にきちんと伝える機会を設けることがポイントになりますの

で、対話式の授業も設定しています」と話す。

他にも社会人や大学生と交流する「モチベーションゼミ」などのオリジナルプログラムも用意。生徒が好奇心を持ち、自らチャレンジしたくなるキッカケを提供している。

将来のビジョンを言語化 付け焼き刃的な指導はなし

同塾は組織・人事コンサルティングを中心に事業を展開するリンクアンドモチベーションが、そのノウハウを「教育」に活用すべく、新たな会社として設立した経緯を持つ。当初より、科目指導だけでなく、課題解決能力を高める授業や、自分の将来について考える講座など特徴的な指導を行なっ



総合型選抜対策で最初に取り組むのが自分史の作成。自分の価値観や興味を洗い出すことにつながる

いた。

総合型選抜(当時はAO入試)に対応するようになったのは開塾4年目。「慶應SFCを目指したい」という生徒の要望に応じて対策を講じ、見事合格に導いた。同塾の教育理念に共感して集まった優秀な講師がいたことに加え、「開塾当初から大事にしていた人材育成のフレームワークが、総合型選抜の対策にもマッチしたのでは」と横山先生は分析する。

総合型選抜の講座では、個別授業を軸に何に興味・関心を持っているか自己分析を進め、将来のビジョンを言語化していく。さらに大学調査や志望理由書の作成など、総合型選抜に必要とされる要素を網羅し、オリジナルカリキュラムとして用意している。

同塾のポリシーは、「この志望理由を書けば合格できる」といった、付け焼き刃的な指導は一切していないこと。「総合型選抜の一番の核は、『将来こう



モチベーションアカデミア 渋谷校



総合型選抜や推薦志望生が集まるコミュニティ「未来カレッジ」。同じ目的を持つ仲間同士、励ましあう場にもなっている

総合型選抜の合格者は 大学に入ってから伸びる

「大学に入ってから伸びる」ということがしたいから、この大学に進学する」という志を、どれだけ説得力を持って語れるかです。そのコアとなる部分を、大人が考えて押し付けてはいけません」と松尾先生。

実際、総合型選抜の入試直前の6、7月になり、駆け込んでくる受験生もいる。しかし、表面的なことを取り繕って志望理由書を書いても、結局大学側に見破られてしまうと説明している。

横山先生は「昔前の推薦入試に比べて、明らかに求められるレベルが上がってきています。制度について詳しく説明すると『そんなに大変な入試だと思いませんでした』と話す保護者の方もいます」と話す。

日本では、ペーパーテストの一般入試に対し、「面接や小論文などで受験する総合型選抜や学校推薦型選抜を否定的に見る傾向がある。一方、早稲田大学や東北大学ではGPA(成績評価)において、AOで入学した学生の方が高かったという結果

も報道されている。

松尾先生は「実際のところ、難関大の総合型選抜受験者は一般入試に較替えても合格できる受験生が多いのではないのでしょうか。それに大学進路理由を言語化できている学生ほど、大学4年間をフル活用できると思っています」と話す。

「どちらの学力が高いか低いかではなく、一般・総合型でそれぞれの受験生の強みが違うだけだと考えています。私は教科の勉強を否定するつもりはありません。単にペーパーテストを受けたくないから、総合型選抜や推薦型選抜の受験生の学力が低いと断定するのは、戦わせる土俵を間違っていると思えますね」と話すのは横山先生。

同塾では、総合型選抜で合格した受験生は大学入学までの空白の期間(ギャップタイム)が長い。その期間を有効に使えるように指導もしている。興味分野について自主的な研究活動を続けたり、大学からの学問に備えて早期に勉強を始めたりと、総合型選抜で合格した強みを生かした計画づくりを支援している。

英語嫌いが米国で出会った夢 やりたいことを見つけて羽ばたく

生徒のやる気を引き出し、モチベーションを高めることに重きを置いている同塾。やる気を取り戻し、やりたい

ことを見つけた生徒が何人も誕生している。

中高6年間通塾したある生徒は中学受験で第一志望校に合格できず、勉強自体が嫌になり、大人を信用できなくなっていた。担任だった松尾先生はスモールステップで成功体験を積みませながら、生徒の自己肯定感を高めていった。街づくりに興味や関心を持ったその生徒は、総合型選抜で都市工学を学べる大学に進学を決めた。

横山先生が担当したある生徒は、高校の時に入塾。英語が嫌いで塾の先生も嫌い。コミュニケーションが取れない時期もあったが、少しずつ会話ができてくるようになった。将来は看護師を目指していたが、短期留学をきっかけに大きな転機が訪れる。留学先の学校で体験したファッションショーで服飾デザインに目覚め、高校卒業後は渡米し、英語を勉強しながら大学進学を目指すことに。「デザインが勉強すると決心したからの行動が早かった。そのエネルギーのすごさに気づかせてもらいました」と横山先生は語る。

「将来について考えたり自分を振り返ることは、一般入試を受けるにしても非常に有用だと思います。自分の足で立ち、自分の人生を切り開いていけるような人間を一人でも多く世の中に送り出したいという思いで私たちは活動しています」と松尾先生は話している。